



どじょうのささやき

今月の特集

1 地震について

2 シックハウス

2002年

10月号



地震に強い家を建てよう！



備えあれば憂い無し！！



廃虚の市民立ちつくす



阪神・淡路大震災では、約24万戸に被害が及ぼされました。

関東西関東の震災は、300万戸以上に及ぼされました。

主な地震による被害

年	名称	震度	被害総戸数
1923年	関東大震災	マグニチュード7.3	254,000戸
1948年	関東中部地震	マグニチュード7.5	157,248戸
1954年	新潟地震	マグニチュード7.5	8,500戸
1964年	十勝沖地震	マグニチュード7.9	3,677戸
1978年	宮城沖地震	マグニチュード7.4	6,757戸
1983年	日本海沖地震	マグニチュード7.7	7,397戸
1994年	三浦半島沖地震	マグニチュード7.5	501戸
1995年	阪神・淡路大震災	マグニチュード7.2	240,000戸
2004年	新潟地震	マグニチュード7.2	3,479戸
2011年	東日本地震	マグニチュード9.1	26,513戸

地震はいつくるか分かりませんが、ひとたび起こると大きな災害をもたらしています。私たちの命を守る上でも、建物の地震対策は重要です。丸永建設では、新築の建物を計画するときに、構造カルテを作成し、施主様にお渡ししています。これは、設計した建物ごとに、建物の重心、壁の量や配置を計算しているものです。出来上がってしまっは分からない、建物の構造をカルテにしておりますので、安心して生活が出来ます。



構造カルテとは？

地震が起こると・・・

揺れからくずれたり・・・

おれおれ、おかしなところ・・・

揺れがひどくなると・・・

そうならないためには？

構造カルテとは？

1. 耐震・防災大震災や高層ビルクラスの外観に対し、適切な耐震対策を確保。
2. 構造チェックはコンピュータにより数値に換算。設計者は確認。
3. 建築基準により、設計の制限が厳格です。高層ビルはコストも高。

① 基礎チェック

② 耐力チェック

③ 柱の腐蝕、土留・地への耐力込みチェック

④ 柱の引継ぎチェック

建物の地震対策で重要なのは、構造部分の接合部の強度です。柱や梁を頑丈なものにしても、そのつなぎ目が弱ければ、建物全体の強度が心配です。

そこで丸永建設の家では、右の図のように、多くの耐震金物を使用しています。備えあれば憂い無し。生命を守る建物の地震対策は、これで万全です。

建築途中の現場があれば、足を止めて見学してみてください。金物の量は、構造に詳しくなくても、一目で分かります。

約2300点もの耐震・耐風金物

●耐震・耐風金物だけで約2300点。その他も合わせると約30000点。躯体接合部の強度を高めています。※延床面積約40坪の場合

あなたのお宅は大丈夫？「シックハウス症候群」



新築・改築後の住宅やビルにおいて、化学物質による室内空気汚染などがおこり、居住者の様々な体調不良が生じている状態をシックハウス症候群と呼ばれています。

しかしこれは、建物の材料だけでなく、家具やカーテン等の室内に置いてあるものからも、ホルムアルデヒド等の発生が確認されています。



ホルムアルデヒド濃度を測定します！

丸永建設では、ホルムアルデヒド対策物質「セルフイーエル」の施工代理店となっております。無料でホルムアルデヒド濃度測定サービスを行っておりますので、お気軽にお問合せください！

今月のイベントのお知らせ

◆ 完成現場見学会を行います

■ 10月26日(土)～30日(水)

安来市黒井田町 永井邸

■ 10月5日(土)～7日(月)

能義郡伯太町 細田邸

※詳しい場所の案内は下記の連絡先までお問い合わせ下さい



メ毛

丸永建設株式会社

本社/〒692-0023

安来市黒井田町1895番地3

TEL (0854) 22-2478

FAX (0854) 23-2348

米子営業所/〒683-0836

米子市花園町126番地1

TEL (0859) 33-3847

E-mail: marunaga@crocus.ocn.ne.jp

担当